

松前藩 復領から200年

令和3年は、江戸幕府から旧領復領を認められて200年の節目。そして令和4年は、実際に松前藩主と家臣が帰ってきて200年になります。

そこで、松前藩が梁川（現在の福島県伊達市）へ領地替えをした経緯の概要（略）をご紹介します。

米が穫れない無高の藩

寒冷な北の大地、松前藩領では米が収穫できませんでした。そのため、諸大名の紹介書である『大名武鑑』では、松前家の部分に「無高 蝦夷松前一円 先祖代々之を領す」と記されています。無高とは米が穫れないという意味です。

そのため、松前藩では、福山の地を拠点として、交易を基盤に据えた藩運営を行っていました。特に江戸時代後半には、蝦夷地の漁

場経営を商人に請け負わせ、松前藩主や知行権を持つ藩士に運上金を納めさせる「場所請負制」という制度がありました。

商人は、自らが請負った場所に支配人を派遣して、現地に住むアイヌ民族や、本州からの出稼ぎ和人を労働力とした漁場を経営することで、多大な利益をあげていました。しかし、この仕組みが、松前藩の梁川への領地替えの一因となりました。

和人の横暴と

アイヌ民族の武装蜂起

道東の場所請負人であった飛騨屋では、アイヌ民族を酷使し、彼らがサケ漁を行う河川にも侵入するなど、不満が増幅していました。

事件が起きたのは寛政元年（1789年）です。松前藩の竹田勘平という足輕

が、上乗り（積荷などの管理役）として国後島に赴いた際、アイヌ民族に対してオムシヤ（土産品を与える儀礼）を行わないという非礼を働きました。

また、同島のアイヌの中でも有力者であるサンキチが、飛騨屋の支配人からもらった酒を飲んだ後に死亡し、古釜布の女性も、番屋でご飯を食べたところ死亡しました。

これを同胞が飛騨屋に毒殺されたと考え、今までの不仲が一気に表面化して、クナシリ・メナシ地方のアイヌ民族が武装蜂起するに至りました。



クナシリ・メナシ地方

事件の顛末

クナシリ地方の首長であるツキノエがなだめたものの、彼の留守中に飛騨屋の支配人など22人の和人がアイヌ民族によって殺害され、対岸のメナシ地方でも49人の和人が殺害されました。

これを重く見た松前藩は260人余りの藩兵を派遣し、それに加えてクナシリ・メナシ地方の12人のアイヌ有力者が協力し、各地で蜂起した同胞の説得に廻ったことで、蜂起した200人余りは降伏しました。

松前藩は「クナシリ・メナシ地方の支配人たちが道理に外れた行いをしたので蜂起に至ったことは承知したが、藩に訴えをせずに彼らを殺傷したことはご法度である」として、蜂起の中心となったアイヌ民族37人を死罪としました。

領地縮小と梁川への

領地替え

騒動は収まったかに見えましたが、全国各地へ情報が入る中で、アイヌ民族の蜂起にロシア人が加担していたという風評があったことから、幕府は松前藩に対して尋問書を出しました。



『夷酋列像』のうち「ツキノエ」(蠣崎波響筆)

国後島の首長で、事件収束にあたって最も功績があった人物

これに対して松前藩は、場所請負制を改めることや、沿岸防備のための勤番所を増設するといった対応をとることにしたのです。

それでも、毎年のように蝦夷地近海へ出没する外国船に対して有効な政策をとることができず、『墨弁奇談』『地北寓談』といった蝦夷地・松前藩の内情を暴露する書籍が幕府に献上されると、いよいよ松前藩の立場が危うくなります。

まず、松前家13世道廣が幕府から隠居させられ、14世章廣が藩主となりました。



旧領の松前と移封先の梁川

そして、寛政10年（1798年）に東蝦夷地（浦河から知床岬まで）を幕府が召し上げ、代替地として武州埼玉郡久喜町（現在の埼玉県）に五千石を与えられます。

文化4年（1807年）には、松前はもとより西蝦夷地及び樺太とその属島も召し上げて、松前藩は奥州伊達郡梁川を中心とした九千石に加え、幕府から管理を委託された預地として常陸国（現在の茨城県）・上野国（現在の群馬県）に九千六百石を得て、領地替えとなりました。

藩をあげての復領運動

その後、松前藩は筆頭家老であった蠣崎波響を中心として、松前への復領運動を始めます。波響は、多忙な政務の合間を縫って数多くの絵を描き、それらを売って得たお金を運動資金としました。また、松平信明に替わって幕府老中首座となつた水野忠成に対して松前藩は、復領の働きかけを行いました。

水野忠成は、徳川將軍家斉の信頼が厚く、將軍の父である一橋治済とも懇意であり、さらに治済と松前家13世道廣が遊び仲間だった縁を利用し、松前藩は集中して献金を贈っていたようです。

領地替えから14年後の文政4年（1821年）12月、蝦夷地の治政が整ったという理由で松前藩の復領が許可され、翌年5月、松前家14世章廣と藩士たちが松前に戻り、復領が成し遂げられたのです。

復領200年を記念して！

松前藩の梁川での暮らしぶりや、復領に至った経緯など、歴史資料を通してご紹介したいと考えています。

歴史パンフレットの配布

松前城資料館での企画展

専門家による歴史講演会

などを令和4年度に予定しています。

福島県伊達市とは、この歴史的関係から、姉妹都市締結しています。

『梁川八景扇面図』のうち「壬申初夏従梁川岩嶽望城中真景図」
蠣崎波響が文化9年（1812年）に扇面に描いた梁川八景のうちの1枚。
原本は函館市中央図書館に所蔵。令和4年度に松前城資料館で全8枚の複製を展示予定。

